

の積み重ね、インタビュで「今の自分が信じられません。」と答えていたのが胸をうちました。

本県関係の入賞者は次の通りです。和久田選手三十一位、大杉選手六十一位、高梨選手八十五位。

昼食後

《読上暗算競技》

優勝は千葉県の大学生・堀内祥加選手、二年連続・五から十五桁。

《読上算競技》

優勝は沖縄県の高校生・玉那覇有亮選手、七桁―十六桁。この選手は開会式に宣誓をした選手でした。静岡県では和久田貞子選手が七桁―十六桁を正解して七位入賞。

《都道府県対抗競技》

予選組合わせ抽選が行われ二十八チームの参加となった。静岡県チームは、和久田貞子、野末陽太、黒沼隼人の三選手で、一回戦は不戦勝、二回戦で愛知県、滋賀県と対戦し愛知県が勝ち残り、静岡県は全員正解したのですが、速度の差で愛知県に負けてしまった。優勝は愛知県、二位・大阪府、三位・道央。成長して来年に期待したいです。今年も多くの選手に参加していただき誠にありがとうございました。栗田副支部長はじめ同行の先生方、高校の先生方にも大変お世話になり、感謝申し上げます。来年は京都府の開催となります。

全日本珠算選手権大会観戦記

北遠地区 竹内史寿

去る八月九日に沖縄で開催された、全日本珠算選手権大会に同行して参りました。全部で五四七名、静岡県からは十七名の選手が参加致しました。初の沖縄開催という事で、沖縄県からの参加者が一七六名、その内、小学生が七十四名と非常に多く、沖縄県のレベルの高さに改めて驚きを感じました。大会は、参加選手全員の氏名がスクリーンに映し出される荘厳な、ちよっ

と長い開会式の後、フラッシュ暗算からスタートしました。二桁・三桁十五口四秒の予選問題は小学生を含め殆どが通過し、一算落しの決勝戦に入りました。決勝戦は三桁十五口四秒から徐々にスピードを上げて行きます。結果的には昨年の一・八五秒を上回る、一・七九秒で岩手県の笹野選手が二連覇を果たし、さらに挑戦した一・七七秒を見事にクリアし、ギネス記録更新

となりました。私のような凡人には、読み取る事も覚束ない速さです。まさに道を究めた者の技であり、この記録を成し遂げた瞬間に立ち会えた事に、会場にいた全員が感動を覚え、大きな拍手とともに、会場の一体感がぐっと高まったように感じられました。

そして、会場の緊張感は一気に高まり、いよいよ個人総合競技の開始です。五〇〇人もの高段者が一斉に計算に取り組む姿は圧巻の一語です。因みに、個人総合は検定試験の段位の問題を半分の時間で競う訳ですが、一〇〇位入賞ラインは一、五〇〇点満点中の一、二〇〇点ですから、平均正答率八〇%、つまり半分の時間で八段合格の点数を求められるということになります。

結果は、道東の若松選手が満点で優勝、一、四五〇点以上が二十四名という高レベルの戦いでした。驚くべきは、この二十四名の中に小学生がいたことです。小学生そろばん日本一に輝いた弥谷選手は一、四六〇点で二十一位、小学生十位でも一、二五五点で八十四位と、小学生のレベルの高さが目立ちました。また、開催県沖縄は三十二名が一〇〇位入賞し、四名が小学生十位入賞と際立った成績でした。指導者の端くれとしては、どうやったたら、ここまで伸ばせるのかと驚くばかりでしたが、今大会最年少出場場の小学一年生、沖縄・森選手が珠算三段・暗算九段と紹介されたあたりにヒントがあるような気がしました。さて、大会はこの後、読上暗算・読

上算(やった！貞子さん七位入賞！)と続き、最後のクライマックス、都道府県対抗競技を迎え、会場も大いに盛り上がりです。静岡県の初戦の相手は愛知県・滋賀県です。うーん、今回はクジ運が悪かった。静岡県も三人全員正解したのに愛知県が圧勝、「僕が二番やってる時にハイッて言ってた。」(陽太君談)という愛知県が地元沖縄も破り優勝を果たしました。

このようなハイレベルの競技を観戦し、また、県選手団の練習も間近に見ることができたことは私にとってはかけがえのない貴重な体験となりました。お世話いただいた、荒木田先生・栗田先生にこの場を借りて、改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。



2011.08.08